

クラブ活動に社会人基礎力

1

「学泉といえばバスケット」と言われる。そして「バスケットといえば学泉」とも。この限定的な表現は決して誇張ではない。愛知学泉大学はバスケットボールの名門であり、そのバスケットボール部は全国でも屈指の存在なのだ。

クラブ活動のめざましさは、愛知学泉大学、愛知学泉短期大学にも及ぶ。クラブ、サークルが多くあり、活発に活動を繰り返しているが、中でも随一に挙げられるのはバスケットボール部。

愛知学泉大学は岡崎、豊田の二キャンパスごとにクラブ・サークル活動が行われており、バスケットボールは岡崎に女子バスケットボール部、豊田に男子バスケットボール部がある。これが共に全国的に傑出して名を挙げている。

女子バスケットボール部はA、Bの二チームを擁するが、Aチームは全日本大学選手権（インカレ）に六年連続、五年連続を含む十八回も優勝。連続出場回数記録も昭和五十六（一九八二）年から平成二十一（二〇〇九）年まで二十九年に及ぶ記録を持つ。平成二十一（二〇〇九）年には九年ぶりに準優勝を果たし、今日指すは優勝。「インカレ優勝」を合言葉にチームワーク力をさらに強める。



愛知学泉大学バスケットボール部男子チーム
(上) と女子Aチーム

この男子バスケットボール部からもまた、全国的にバスケット界を担う人材を多く輩出している。平成十六（二〇〇四）年卒業の桜井良太は平成十八（二〇〇六）年世界選手権に出場、平成二十二年現在も日本代表に選出され中心選手として活躍している。

2

愛知学泉大学のバスケットボール監督には、後に日本代表監督を務めた小野秀二（JBL日立ヘツ

この輝かしい成績を生み出した歴史の中からは、一九八三〜二〇〇一ユニバーシアード、世界選手権代表、アジア大会代表に延べ二十六名もの部員が選出されてもいる。

また、豊田の男子バスケットボール部もそれに比肩する存在ぶりを示す。戦績は、東海リーグ戦大会優勝十五回、東海トーナメント大会優勝十六回、西日本大会優勝四回、全日本選手権大会出場六回。そしてインカレは平成十二（二〇〇〇）年にベスト4入りを果たしている。



愛知学泉大学空手道部

ドコーチ」と、昨年までWJBLデンソーアイリスヘッドコーチを務めた木村功がかつて務め、手腕をふるった。バスケット興隆に大切なのは次世代の日本代表プレーヤーを育成することでもあるとして、チームづくりとともに選手育成、そしてその根底になる指導者育成にも努めた。

愛知学泉大学バスケットボール部(男女)のOB・OGには多くの逸材が輩出し、指導者に、加藤雅規(アイシン・エイ・ダブリュウイングス監督)、浜口炎(仙台89ERSヘッドコーチ)、西田陽子(三菱電機コアラーズアシスタントコーチ)ら、選手(引退を含む)に高辻周孝、上山博之、桜井良太、眞鍋かおり、船引かおり、榊原紀子、船引まゆみ、渡邊温子、杉山りえ、小林阿古、中尾綾らの名が主なリストとしてあげられている。バスケット界では知る人ぞ知る人たちが、全国のバスケット仲間には愛知学泉大学時代に師事を受けたメンバーも多くいて、その理論や熱血ぶりは今も語り継がれているという。

世界・全国大会への出場にあつては、豊田では空手道部、サッカー部も屈指される。

空手道部は世界チャンピオンを輩出という榮譽を誇る。平成十二(二〇〇〇)年の世界大学空手道選手権大会、「女子個人形」で中村智恵子選手が優勝、世界チャンピオンとなった。各種大会での活躍も特筆される。全日本大学空手道選手権大会には「男子団体組手」で平成四(一九九二)～二十一(二〇〇九)年に

わたって十八年連続出場。この記録は東日本大学空手道選手権大会でも同様で、成績はベスト8まで進んでいる。長期の連続出場は全日本学生空手道選手権大会でも。「男女個人組手・形」で平成七（一九九五）～二十一（二〇〇九）年にわたって十五年連続出場、「形」で準優勝を決めている。こうした輝きの戦績を伝統に、今も東海制覇を極め全日本選手権上位をねらう。

3

サッカー部は、これまで平成三（一九九一）、四（一九九二）年に全日本学生サッカー総理大臣杯に出場したが、天皇杯では平成十一（一九九九）年の愛知県代表決定戦で決勝まで進出したものの全国大会は未達。現在の活動目標をインカレ出場、天皇杯出場において精進を重ねている。

*

全国レベルのスポーツクラブにいくつかスポットを向けたが、大学には多くのクラブやサークルがある。豊田には運動系で十二、文化系で学祭実行委員会、オーケストラなど十三、岡崎には大学・短期大学共通で運動系十八、文化系十二が活動する。

それらの多くは、競技大会で成績を競うとともにキャンパスライフを楽しんでいる。

ちなみに、岡崎での人気サークルは①アウトドア、②ボーリング、③学泉祭実行委員会、④フットサル、⑤テニスといったランキング。アウトドアはラフティング、スノーボード、バーベキュー



愛知学泉大学・短期大学岡崎キャンパス学泉祭実行委員会

など色々な活動をして、部員も百名を超えるという。人気の程が知れるが、学泉祭実行委員会が花形というのはちよつと異色。

学泉祭は毎年十月に開催される大学祭で、学生生活最大のイベント。委員会では夏祭りなども含めて企画・運営する。

年一度の催事に向けて、毎週ミーティングを続けて計画を盛り上げていく。それにパワフルなメンバーが集まるとか。彼らの目標は、「学生の笑顔をたくさん作ること」だという。互いに相手を思いやる気持ちや、励まし合い一生懸命頑張る姿勢が素晴らしいチームワークをつくり、それがまた周りの学生たちをひきつける魅力になっているのかもしれない。こうしたサークルが人気というのは、ちよつと興味が引かれるところだ。

祭り会場で楽しむ学生たちのために自ら進んで一年間努力を積み重ねる。その行為には「自利」ではなく「他利」を図る奉仕の精神―よりよきコミュニティ形成の希求がある。

学園祭のうち、文化祭は初等・中等教育における正課の学校行事のうち学芸的行事とされるものの一種。体育祭は健康安全・体育的行事とされるものの一種。そして、大学祭は高等教育における課外活動の一種だと意義づけられている。こうした課外活動に

において、このサークルに参加する学生たちの社会人基礎力は大きく育成される効果もあるようだ。

4



愛知学泉大学男子バスケットボール部

クラブ活動のすべては社会人基礎力育成に通ずる：こうした論理の正当性は、平成二十二（二〇一〇）年六月十九日に行われた年度恒例の安城学園報告討論会においても考察と実証がされた。大学男子バスケットボール部監督の山本明准教授が「スポーツにおける社会人基礎力」のテーマで発表。日頃の練習・精進の体験から、主体性、働きかけ力、実行力、課題発見力、：等々、社会人基礎力とチームスポーツ活動との関わりを述べ、クラブ活動は社会人基礎力育成の場となり得るとし、社会人基礎力はチーム力向上にプラスになるとの確信を披瀝ひれきした。そして、社会人基礎力育成をクラブ活動に取り入れるメリットとして、

「チームスポーツ活動は、『チーム力を高めようとする活動』が意識的に行われてこそ価値がある。その中で個人が経験値として獲得できる能力を明確にすることによって、学生たちの中にはその視点が芽生え、自分をその視点から評価することができるようになる。」

すなわち『自分を知る』—自分の「強み」「弱み」を判断することにつながり、その振り返りが意義あることになる」とした。

山本はまた、企業が求めている力とチームスポーツ活動の共通点もあげた。

「社会人基礎力が企業で必要であるとされている能力と考えられているのは、チームとして（集団・組織として）活動する力であり、チームスポーツ活動もチームとして活動する力が最も必要とされる」この同じ要素が必要とされる点において、チームスポーツ活動—クラブ活動の重要性を指摘したのだった。

また、企業が求める能力の一つに「やり抜く力」がある。自分の思うようにいけない時に簡単にやめれば物事は達成できない。思うようにいけない時にも頑張り続けることで達成できる。企業はそうした「やり抜く力」を求める。

クラブ活動では、自分の思うようにいけない時にも頑張り続けて成功する。達成できなくても頑張った経験は自分の力になることを経験できる。その経験知は「精一杯努力すれば必ず自分に返ってくる」という思いを醸成する。

5

山本は、スポーツ活動における大切なテーマは、学生一人ひとりが成長するために「自分の能力



「2011 学泉スポーツ推薦」募集概要のパンフレット

を出し切る」ことに挑戦していくことだ、とする。

さらにその説くところは、一人ひとりの選手が力を出し切ることは「個人としての成功」につながることはいうまでもないが、学生自らが自分の能力に挑戦しながら自己を高めること、その真摯な姿勢がメンバー間の信頼関係を生み出し、チームとしての協調をつくり「チームとしての成功」につながる。チームスポーツ活動の意義の多くは結果

を出すための過程にあるというのだ。

これは、社会人基礎力の能力要素の獲得を通した、潜在能力の開発であり、それは建学の精神に基づくものでもある。

愛知学泉大学のクラブ活動を最も代表するバスケットボール。その部の監督がこうした理論と実践例を学園報告討論会で発表したことよって、社会人基礎力育成を糸口として、学生・生徒に学力・体力とともに社会で生きていくために必要な適応力の育成に傾注しようというムードは学園内に一層高まることになった。

そうした意味で、大学では従来からクラブ奨学生制度を設けてクラブ活動の興隆を図っているが、「無限の可能性」プログラムと並行して、新たな基準のもとスポーツ推薦制度を設けることにした。

「2011学泉スポーツ推薦」と銘打って、来春開設の現代マネジメント学部（現代マネジメント

ト学科)の学生を対象に、バスケットボール、サッカー、空手道、ハンドボール、硬式野球、ソフトテニス、硬式テニス、剣道の各クラブで奨学制度を定め、従来の制度をさらに充実させるという。いうまでもなく、ねらうのは、クラブ活動を通じての社会人基礎力の育成を促進するところにある。